

「わいわい文庫」を活用して広げよう

本で知る喜び・わかる楽しさ

―冊子『わいわい文庫活用術』をヒントに

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会長
東京都立光明学園 校長 田村康二郎

「わいわい文庫」との出会いは 学校に届いた1枚のCDから

伊藤忠記念財団作成の「わいわい文庫」に初めて私がふれたのは、今から10年程前でした。ある日、校長室に毎日束で届く校長宛の郵便物の中から、ちょっとサイズの異なる封書を見つけ、何だろうと開いたところ、中からCDとお手紙が飛び出してきたのです。そう、それが「わいわい文庫」の詰まったCDだったのです。

名作や童話がいくつも納められていて、しかも無料で全国の特別支援学校に配布されていると知り、驚きました。志のある活動に感激して、その場で財団にお電話しました。

「今、拝見しました。素晴らしい取り組みに驚きました。学校の教育活動の中で活用していきます」とお伝えしました。

これが御縁となり、後日、「わいわい文庫」についてご意見を聞かせてくださいと、財団の方が学校を訪ねて来てくださいました。その時に、「わいわい文庫」に関する以下の説明を頂戴しました。

- ◇全国の特別支援学校約一千校に配布されていること。
- ◇どのように活用されているのか、実態が具体的にわからないので、数校を訪ねて回り始めたこと。
- ◇今後の普及策を探られていること。私からの意見もお伝えしました。

「わいわい文庫」の魅力をもっと多くの学校に！

- ◆校長宛にさまざまな郵便物・提供物が届いている中で、「わいわい文庫」のCDが校内担当者の手に渡っているかどうかは、大いに疑問です。
- ◆書店や図書館では、おすすめ図書が面出し（背表紙ではなく表紙が全部見える陳列方法）でディスプレイされ、視覚的にパッと選びやすくなっています。収録のタイトル名を記載するだけでなく、子どもたちが一目で本が選べるような工夫をしませんか。
- ◆単に広く配布するだけでなく、「わいわい文庫」の積極的な活用を意欲ある学校と提携して、活用実践の共同研究をしませんか。

◆共同研究で得られた有効な活用方法をまとめ、他の学校で導入するヒントとして発信しませんか。

私の意見に真剣に耳を傾けてくださった財団の皆さんは、それ以来、学校に頻繁に足を運んでくださるようになり、学校側の希望を取り入れた提案を毎回持参してくださいました。「こんな工夫をしてみました」「こんな分野のデージー図書も作ってみました。使ってみて意見を聞かせてください」と。

「わいわい文庫が どんどん使いやすく！」

それらの中で、具体化した工夫のいくつかをご紹介します。

〈バス乗車中の聴く読書システム〉

車いすの子どもたちが通う特別支援学校のスクールバス運行エリアは広域で、登下校とも60分くらいかかる子どもたちも少なくありません。このスクールバスは定時運行のため、車いすの子どもたちは通常の学校のように、放課後に残って図書室で本を読んだり、教室で読書をしたりすることがまったくできないのです。ですから、文学・雑学などの読書量が圧倒的に少ないのです。

そこで毎日のスクールバス乗車中の登下校を読書タイムに活かそうと始めた実践研究が「聞く読書の貸出システム」です。

運動機能障害を有する子どもたちは、本のページをめくることが難しい場合が多いのです。さらに揺れる車中では、誰でも活字を目で追ってはいは酔ってしまいます。そこでiPodに「わいわい文庫」を収録し、透明バッグにイヤレシーバなどと合わせて入れた貸出パックを6セット作り、職員室入口に貸出コーナーを設けました。

下校時にスクールバスへ向かう途中で立ち寄り、好きな物語の入ったパックを先生と一緒に借り出します。スクールバス内の定位置に着くと、先生にイヤレシーバをセットしてもらい、聴く読書の開始です。

肢体不自由と一言でくくってしまいがちですが、障害の程度や状態はさまざまです。登下校の聴く読書を心待ちにしている熱烈なファンは数人でしたが、その数人にとっては、待ちに待った読書支援でした。特別支援学校では全員が一つの方法でうまく対応できるということはまずありません。個に応じた使いやすい方法を見出すことが大事なのです。

〈本の目録：本の表紙ポスター〉

「わいわい文庫」に新しい本が加わるたびに、視覚的に選びやすいように、本の表紙画像が満載のA3判のポスターと一緒に届けられるようになりました。障害の重い子どもたちが、介護職員が

呈示するこのポスターの中から、視線や指さしにより、自分で読みたい本を選んでいる光景をよく見かけるようになりました。

〈活用実践レポートが冊子「活用術」へ〉

全特別支援学校に「わいわい文庫」のCDを配布される伊藤忠記念財団の志は素晴らしいものですが、広く配布するだけでは、主体的に取り組む学校の様子や活用の手ごたえがなかなかわかりません。そこでしっかりと取り組む意欲のある学校へ、財団から機材等の貸し出しを行い、協同で活用成果の研究を進めることを提案しました。提案はすぐに具現化され、10校が参加し、『わいわい文庫活用術①』が完成。2013年5月から「わいわい文庫」とともに配布されるようになったのです。これが契機となって、活用事例の研究校はだんだんと広がり、全国各地の公共図書館からも事例が寄せられるようになっていきます。こうした活用事例報告の中からの実践発表を盛り込んだ「読書バリアフリー研究会」が全国各地で開催され、読書活動に取り組む教員たちの大事な情報源となっています。

『わいわい文庫活用術』には グッド・アイデアが満載！

これまで発行された全6冊の活用術の中には、発想豊かで成果のあった活

用方法が満載です。その中からいくつかをご紹介します。

〈DAISY図書キャラバン隊〉

特別支援学校で取り組まれた普及活動の一つです。学年・学級からリクエストを募り、担当教員が大型モニターとマルチメディアDAISY図書システム一式を携えて教室に伺って展開します。

子どもたちとのDAISYタイムを通して、若手の先生や初めてマルチメディアDAISY図書を知る先生方が、操作方法や活用方法を自然に学び取ります。受け入れる側の先生方も、「今度は自分でやってみよう」となっています。

図書の選びやすさの工夫

各活用校では、「わいわい文庫」CDの中に詰まった本を選びやすく・使いやすくするために、さまざまな方法を駆使しています。

・・・・・・・・・・・・・・・・

〈1話1CD方式〉

選択肢が多いと選びづらい子どもたちのために、1話ごとにCDに焼き直し、本1冊がCDの1枚になるように分けた学校

〈iPadに分散収納〉

何台ものiPadに分けて収納し、校内貸出する学校

〈専用コーナー〉

図書室に専用コーナーを設けた学校

〈家庭へのCD貸出し〉

図書貸出の一環として取り組んでいる学校

〈録音量別CD収納〉

お話の長さ（短編・中編・長編）別に分けて何台ものiPodに分けて収納し、子どもたちの実態に応じて借りやすくした学校

小・中学校、図書館、海外へ 広がる活用の場

このように10年ほど前の出会いから、特別支援学校で学ぶ子どもたちの読書活動を充実させようと、ともに歩んでくださった財団の皆さんです。その一步一步の積み上げが大きな財産となりました。

特別支援学校での蓄積は、特別支援学校に通う子どもたちへの支援だけでなく、広く通常の学校などで学ぶ「従来の本では読みづらい子どもたち」「集中がむずかしい子どもたち」「見ること・聞くこと・理解することにむずかしさのある子どもたち」など多くの読みに苦戦している子どもたちが読書の喜びを知るための宝箱となったのです。

また、特別支援学校以外の学校や各地域の図書館、そして海外（モンゴル他）においても、障害のある子どもたちの読書支援策として、デイジー図書の活用実践が大きく広がっています。

読書の喜びを

これからを担う子どもたちへ

私の読書史を振り返ってみますと、自宅近くの区立図書館の開館初日に児童室に貸出登録をしたことが始まりでした。借りてきた本はその日に読み切ってしまう、明日の貸出が待ち遠しかったのを今も鮮明に覚えています。それから数年後、児童室の本をすべて読み切ったようで、「明日からは大人の読書室へどうぞ」と司書の方に勧められました。

それからは閲覧コーナーだけでなく、天井の高い書庫で梯子をかけながらさまざまなジャンルの本を手当たり次第に読みふけりました。今でもあの時に読んだ本が、基礎知識や考え方の基礎となって自分を支えていることに気づかされます。児童期の読書は、わくわく感とともに語彙力や推理力などの基礎学力や問題解決のための基礎知識など、将来生活を支えるための基盤ともなります。ぜひ、この『わいわい文庫活用術⑦』を手がかりに、マルチメディアDAISY図書を用いた読書活動を広げていきましょう。

今日に至る財団の取り組みに敬意を表するとともに、さらなる発展を期待して「夢」を3つ掲げてみます。今後の財団の取り組みの参考となれば幸いです。

〈わいわい文庫化の公募=リクエスト〉

東京モノレールシリーズ／古都 京都の旅／力士のまいにち他／など、文学作品だけでなく、子どもたちの興味を広げるさまざまなマルチメディアDAISY図書をオリジナルで作っていただいています。ぜひ、全国の学校や子どもたちからの公募で「読みたい本」「読ませたい本」を作ることができる機会をお願いします。

〈「わいわい文庫」活用校表彰&整備支援〉

「わいわい文庫」の活用に創意工夫し努力している学校を称えることで、マルチメディアDAISY図書の活用普及に

きっかけとするとともに、副賞として表彰校の学校図書館の図書拡充の支援がつけば励みとなります。

〈活用実践研究助成校の募集〉

新たな活用実践研究の提案を学校から募り、その実践研究や期待される成果を審査し、マルチメディアDAISY図書の活用波及が期待できる申請に対して、研究費などの助成を行うことで研究を支えてください。

さあ！ みなさん、『わいわい文庫活用術⑦』を「活用」して、子どもたちの読書活動を応援していきましょう。